

ふるさとネットが調査

在京者の住所 203世帯を把握

9月からアンケート調査を実施



8月に行われた訪問活動(品川区の都営住宅で)

「三宅島ふるさと再生ネットワーク」では、非帰島島民の方の現住所の把握に力を入れてきた結果、7月現在で203世帯の住所を把握。7月18日に行われた「世話人会」では、これをもとに今後も訪問活動に力を入れていくことを確認した。

現時点で把握されている東京に住む非帰島島民の方の居住地は、内訳表の通り。12年9月全島避難世帯数1880。7月の帰島世帯は1742。非帰島世帯は138だが、今回の調査と未確認世帯を加えると別居の世帯が多く、深刻な事態が浮かび上がった。訪問に関し、

非帰島島民の居住地内訳

東京北部 計 59	多摩地区 計 86
北区 22	八王子市 24
練馬区 14	武蔵村山市 10
板橋区 6	町田市 7
杉並区 3	あきる野市 3
豊島区 2	調布市 3
文京区 1	東村山市 2
中野区 1	東久留米市 2
江東区 10	昭島市 1
東京西部 計 58	小金井市 1
港区 14	羽村市 1
大田区 11	府中市 10
江戸川区 6	国立市 3
世田谷区 5	立川市 6
目黒区 2	稲城市 3
新宿区 1	西東京市 3
中央区 1	小平市 2
葛飾区 5	日野市 2
品川区 5	青梅市 1
足立区 4	狛江市 1
千代田区 2	福生市 1
台東区 2	総計 203

東京北部担当の伊藤奈穂子さんは、「非帰島島民の方のお話をしたいので関係を築いていきたいです。転居の予定がある方は、事前に新しい連絡先を教えてください。また「東京西部を担当する吉田信行さんは、「把握した世帯を中心に回ることで、以前からの目標で

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
TEL 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

- 在京三宅島会開催
9月26日(火) 14~17時
(13時半開場)
飯田橋セントラルプラザ
10階会議室A
- ・同日19~21時、同プラザで世話人会議開催
- 廣井脩先生を偲ぶ会
9月9日(土)18時半~
アルカディア市ヶ谷
会長出席
- ご寄付のお願い!
非帰島島民(公営住宅在住者)に歳末助け合いのご協力をお願いします。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク
事務局：あすなる保育園内
電話・FAX 03(3963)5697
担当 大坊・伊藤

あじさいの里

来春再開決まる

施設の補修の入札が8月に終了したことにもない、島の特別養護老人ホーム(特養)「あじさいの里」が来春に再開されることが決まった。

同施設は、避難指示解除後、高齢者在宅サービス支援センターとして運営されていたが、施設の問題などにより特養の機能は再開されていなかった。そのため帰りたくても帰れない高齢者約60人が避難時に入所した施設などにどまっている。このような高齢者にとっては朗報だが、定員は50人のため、帰島を希望するすべての人を収容できない可能性もある。

会長時評

祭りの活気を復興の力に

神戸・新潟被災地からも応援を受ける

神着地区では7年ぶりに牛頭天王祭が開催された。このほか商工会主催のイベントが開催されるなど、活気の戻った島の状況に関するふるさと再生ネットワーク会長の佐藤就之氏のコメントを、「会長時評」として掲載した。

7年ぶりに祭り復活

三宅島は、7年ぶりにお祭りやイベントが復活し、全島あげての熱い夏となった。7月15日の昼は神戸被災地からの応援を得て、アカコッコ合唱団等の呼びかけにより「うたの



中学校のカヌーで遊ぶ海水浴の人々

練馬で支援コンサート

1・17から三宅島へ～メッセージ～三宅島復興支援コンサートが9月11日の18時から練馬区立大泉学園ゆめりあホールで開かれる(入場無料)。

主催は、練馬区防災課と阪神淡路災害支援に取り組んでいる「ぼくたちの1・17実行委員会」等の共催で、佐藤会長が三宅島の現状についての講演を行う予定。

御輿 浅草からの善意で

7月16日は、神着で牛頭天王祭に御輿が浅草の宮本卯之助商店から奉納され本格的なお祭りがで

きた。壬生宮司、神着地区役員、同青年団、宮本社長そして全島の努力と善意が実り、復興への祈念を込め盛り上がった。

若者の協力を期待

7月29、30日は、三宅村商工会主催で盛大にマリンスコレ21が開かれ、被災地新潟長岡の花火も上がった。

大船戸湾では中学校のカヌーを一般に開放。これに校長、教育長等教育関係者総出で協力した。

島は高齢化し、若者と中年の働き盛りは役場支庁、学校等にしかない。私は、官の中堅・若者がこのように村民と交わり、観光等の復興にも協力が欠かせないと思う。今後に期待したい。

ネット情報コーナー

「アカコッコ通信」短縮版

今号から、インターネットを情報源とした三宅島に関する話題を紹介するコーナーを設けました。このコーナーは、以前、「アカコッコ通信」で広く三宅の情報を提供していた大妻女子大学人間関係学部の教授である千川剛史先生の協力を得て編集したものです。これから毎月掲載します。

夏から温泉掘削へ

三宅村は、この夏から新たな温泉を掘削して、観光の復興を目指すことになりました。(8月10日(木)NHKニュース <http://www.nhk.or.jp/nhknet/spot/miyake/index.html>)

小沢代表 島復興に努力

民主党の小沢一郎代表は平野村長らと懇談し、三宅島の復興に向けて努力していきたいという考えを伝えた。(8月1日(火)NHKニュース)

長岡から「復興」の花火

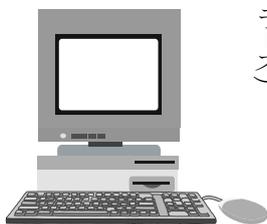
7月30日夜、花火大会で、長岡市から贈られた「フェニックス」が夜空を彩った。(http://headlines.yahoo.co.jp/h1?c=20060730-00000121-kyodo-soc1)

空港 早期再開に署名活動

空港の早期再開を求めて三宅村などが署名活動を始めることになりました。(7月27日(木)NHKニュース)

テングサ漁場づくりへ

東京都は、この秋にもテングサの新たな漁場づくりに取りかかります。(7月4日(火)NHKニュース)



授業で育てる島への思い

元三宅高校教諭 あなたにとも 青谷 知己



噴火後、全島避難によって島の子どもの生活に大きな変化が訪れた。元都立三宅高等学校教諭の青谷知己さんに、学校再開の苦労や教え子たちへの思いなどを寄稿していただいた。

苦労した学校再開

帰島して1年が経過し、島にも少しずつ活気が戻ってきました。高校生の数は噴火前の115名が現在50名程度と激減しましたが、それぞれの避難先でもまれ、都会の空気を持った生徒たちが新しい学校を作りあげようと頑張っています。

学校は昨年4月に立ち上がりましたが、学校の



緑化プロジェクトで島の自然を学ぶ三宅高校生

プロフィール

今年3月まで都立三宅高等学校で教壇に立ち、火山調査を行うと共に同校の再開に尽力した。4月に都立府中高等学校に転勤した。

三宅島で卒業を迎えたのは14名でした。構成メンバーは、秋川校舎から島に

私の担任した高校3年生で見ると、今年の3月

「やっぱり島がいい」

施設や諸条件を整えるまで、大変な苦労をしました。使えなくなつたものの分別や掃除に明け暮れる毎日でしたが、それまでの避難生活の重苦しい気持ちや思えば、明るい希望があるだけ、みんなの顔には笑顔がはじけていました。

連載 三宅島噴火の昭和史①

昭和15年 赤発峯が埋没

三宅では、昭和に入ってから大きな噴火が4回起きています。噴火の歴史を研究する佐久間邦彦さんの話をもとに、今回から3回に渡って三宅島の噴火の歴史を紹介する。

前回は、明治7年の噴火から65年目を振り返った。4月に他校から転校してきた生徒が4名、2学期からの転入が1名、そして、秋川分教場に残った生徒が2名。救いだったのは、みんなが島の生活におおらかな期待と、「やっぱり島がいい」という感覚を持っていたこと。それは卒業後、島の就職を希望した生徒が多かったこと

の昭和15年7月12日。神着・坪田両村境にある赤発峯山腹より噴火。それまで冬に季節風が吹くときの避難場所であった赤発峯が埋没、島下部落が全滅した。このとき、島下部落神着村の住民は伊豆小学校に避難した。当時は自動車が多かったため、小学校までの10何kmの道のりを歩いて行ったという。噴火はいたるところで起こり、その数は「4、5カ所ではなかった」と佐久間さんは話す。新たに

共有が今後の課題

三宅高校の秋川分教場には3名が在籍しています。彼らが無事卒業し

てはじめて、避難生活が完結するのかもしれない。今の高校1年生以下の世代は、都内の様々な学校から戻ってきています。小学生も三宅島での原体験を喪失した世代と言えるでしょう。子供たちにとっての5年間はとても大きい時間でした。高校3年生が普通に持っていた「島への思い」が共有されるには、しばらく時間がかかるでしょう。島の学校がかかえる難しさだと思います。

復興を後押し

絶景の伊豆岬では、貴重な植物、野鳥も見ることができる



最初に訪れたのは、壬生屋敷と御笏神社。1516年に植えられたジャクシンの大木が印象的



83年の噴火で発生した溶岩流により被災した旧阿古小・中学校。溶岩が流れ込んだ校舎は衝撃的だ



立ち入りが禁止されている高濃度地区の三池集落。木は立ち枯れている



今回の噴火で埋まってしまった権取神社の鳥居

窪寺先生のガイドツアー 雄大な景色や衝撃的な噴火の跡を

島の魅力を紹介

夕日・夜空

絶景ポイントがいっぱい

夕日を見るためのオススメポイントは、伊豆岬付近。これからの季節は、めがね岩では穴に夕日が沈むところを見ることもできる。



夕日が美しいめがね岩付近

さらに、月や星を見るなら、大路池がお薦め。水面に月や星が映り、神秘的な美しさだという。

バードウォッチング

250種類の鳥を観察

「バードアイランド」ともいわれている三宅島。島の鳥であるアカコッコは、渡り鳥なども含め、約250種類の鳥を一年中見



大路池近くにある「アカコッコ館」

ることができる。その基地となっているのは、三宅島自然ふれあいセンター「アカコッコ館」だ。

くさや 清漁水産 帰島後すぐに出荷



くさや作りの命。タレのタンクを紹介する青山さん

神着でくさやの生産をしている清漁水産の青山敏行さん。噴火後にくさやの生産に欠かすことができないタレを200ℓ持ち出すことができた青山さんは、新島で2年間製造を続けていた。新島の方がタレをわけられるなどの援助をしてくれたこともあり、帰島後すぐの2月25日に初出荷をした。

ダイビング

大型回遊魚、イルカに遭遇

島の魅力を紹介

自然に恵まれた三宅島はダイビングにも最適。熱帯魚、大型の回遊魚、さらにはイルカなどを見ることが出来る。ダイビングポイントは、大久



ダイビングスポットの大久保浜

保浜、富賀浜など。今年6月に観光協会が主催したダイビングツアーには2000人が参加した。

釣り

噴火後も依然として人気

5分に1匹魚が釣れることもあるという三宅島。噴火の後も釣りに訪れる人の数は減った。大根原島などのほか、



棧橋は絶好の釣り場

りを楽しむことが出来る。これからの季節は、メジナ、キンメダイ、シマアジなどが釣れる。

DTPA 三宅訪問記

豊かな自然が

観光と漁業で賑わった阿古温泉郷



83年の噴火で溶岩に埋没した旧阿古集落(下)と現地の立て看板にある噴火以前の集落の写真(左)



島の緑 徐々に回復

噴火の跡も観光資源に 火山などを学ぶツアーも企画

復興に向けて、島の産業の中心に位置づけられている観光。昨年度の観光客は約3万人で、噴火前の8万人とは大きな差がある。そのような状況の中、

あつた豊かな自然のほか、火山も観光資源にしようという動きがある。現在島では、緑が徐々に回復し、標高500m付近まで植物が見られるようになり、島の鳥であるアカコッコなどの野鳥も数が増えている。

また、火山ガスの影響で立ち枯れた樹木や1983年の噴火で溶岩に埋まった旧阿古小・中学校など、噴火の跡を見ることが出来る。このようなものも貴重な自然と考え、火山や自然について学ぶモデルツアーを、NPOや観光協会などが協力して企画している。

編集後記

今回初めて三宅島を訪ね、自然の素晴らしさを知ると同時に、その力の怖さも感じた。私が一番衝撃を受けたのは阿古集落跡だ。噴火により、400戸の民家などが溶岩に埋まったという現実を見たとき、私は何も言えなかった。このように約20年ごと

牛乳煎餅 岡本楼本舗 風味豊かに1日4千枚



自慢の商品を手笑顔の平松さん

島のお土産として人気の牛乳煎餅。水を一切使わない風味豊かなこのかわら煎餅を製造しているのは、神着にある岡本楼本舗の平松一成さんだ。05年4月に製造を再開。島ではまだ牛が飼える状況ではないので、原料の牛乳は東京から取り寄せ、一日に約4千枚を生産している。

に噴火している三宅島に住むことは安全とはいえない。しかし、島には様々な魅力がある。海植物、野鳥、夕日などの恵まれた自然。また、近所の人がおかずを持ってきてくれるなど、島民同士のつながりの強さも感じた。これらが、島民の方が島を離れたくないと思う大きな理由なのだと思えることができた。(小林)

障害がある方の現状

伝わってきた望郷の気持ち



日野市の施設を
訪ねた際に撮
影。一番右が長
谷川さん

日野市にある知的障害者

町田市で娘の永井たけ子さん夫婦と一緒に生活をしている田村リカさん(92)。「ふるさとネット」の訪問員が訪ねたときには、「てっきり私を島に連れて帰ってくれるのだと思った」と話すほど望

「三宅島ふるさと再生ネットワーク」による訪問活動に同行し、障害を持つ方の声を聞いた。島の福祉事業は再開しつつあるが、まだ帰島がかなわぬ人からは、望郷の気持ちが伝わってきた。

郷の念は強いが、特別養護老人ホームが再開されていない島(一面に関連記事)では、足が不自由なために一人で生活することができない。永井さんは「これまで三宅をつくり守ってきたのは老人たちです。その人

たちを受け入れる体制が整わない限り、若い人たちも戻って来るとはならないと思います」と話した。日野市にある知的障害者施設を撮影した。一番右が長谷川さん

は老人たちです。その人たちは受け入れられる体制が整わない限り、若い人たちも戻って来るとはならないと思います」と話した。日野市にある知的障害者施設を撮影した。一番右が長谷川さん

【お便り】(要約)

事務局様よりお米を送って頂き本当に有難うございました。橋本様が丹精込めて作られた貴重なお米を、本当に恐縮の限りです。かみしめる程甘く、美味しく感謝して頂きました。又、電話帳とアカココロだよりを送付して頂き、干川先生の元で編集された資料は、時間と労力を考えると大変な作業であると思います。皆様本当に有難うございます。(府中市Kさん)

【訃報】

井口春野さん(H18年8月3日ご逝去)慎んでご冥福をお祈りいたします。

【ご寄付者名】(5月16日～8月7日・数字は寄付の回数)(島民)稲葉稔様②、五十嵐文子様(三宅島出身者)森浅香様②、松井宗廣様、永井タケ子様(島外)高橋栄一様④、伊藤優子様、倉持房江様、吉岡薫様、東京七島新聞社様(非帰島島民)S様、I様

アンケートにご協力を 結果は新報などで公表

「三宅島ふるさと再生ネットワーク」では、帰島できない三宅島島民の事情を広く世間に知ってもらうことなどを目的に、非帰島島民の方の状況、疑問や悩みに関するアンケート調査を実施します。質問は大きく分けて次の三つの内容です。A 住居や仕事などに関する記入者自身について

の質問
B 現在の生活に関して、困っていることに関する質問
C 帰島に対する考えや心配事に関する質問

編集後記

夏休みを利用して三宅島へ行き、取材活動と同時に非帰島島民の方のお宅を訪ね、掃除などのお手伝いをしました。

私たちは向上高校新聞委員会の卒業生ですが、現役生も学校新聞の取材のために同行しました。時間は短かったですが、多くの島民の方と話ができ、貴重な経験になりました。(DTPA)